

追悼 名誉市民第1号



日本画家

いまいしゆせん

今井珠泉先生

凡人だから 勉強しなくては生き残れない

1月15日に逝去された本市出身の日本画家で、名誉市民第1号である今井珠泉（本名 昭吾）氏を悼み、その功績を振り返ります。

今井先生は、白河市本町に生まれ、旧制白河中学校（現白河高校）、東京藝術大学美術学部日本画科を卒業され、画家の道を志しました。

「凡人だから勉強しなくては生き残れない」絵は格闘技である」と自らを叱咤し、身を削るような努力の積み重ねにより、日本美術院における画壇の最高位である「同人」に推挙。日本美術院展覧会（院展）の奨励賞や日本美術院賞、文部科学大臣賞、さらには最

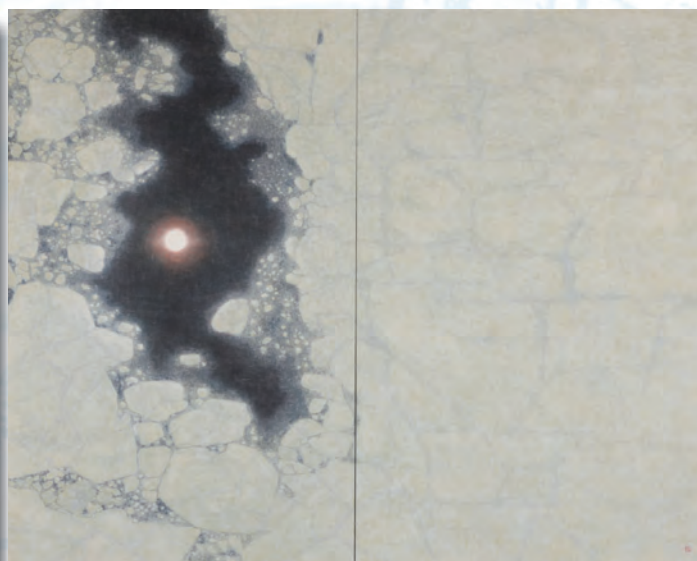
高の荣誉である内閣総理大臣賞など、幾多の賞を受賞し、名実ともに日本を代表する画家としての地位を築いてこられました。

一方で、法隆寺金堂壁画の4号壁に描かれた勢至菩薩立像の再現模写や、高松塚古墳壁画の西壁に描かれた白虎の現状模写に携わるなど、日本の文化財の保存・修復にも大きく貢献されました。

創作の情熱を絶やすことなく、常に新たな表現を追求し、刻苦勉励、ひたすら険しい道を歩み、まさに生涯現役、画業に捧げた人生でした。



▲『静日（イヌワシ）・静夜（流水）』
平成21年再興第94回院展
文部科学大臣賞受賞（各193.9×112.1cm）



▲『流水幻想』平成25年再興第98回院展
内閣総理大臣賞受賞（200.0×250.0cm）



◀過去の関連記事もご覧ください。
（「今井珠泉画伯の迫力」広報しらかわ2013.10.1号『市長の手控え帖』）

〃ふるさと〃 白河を想う心



▲『松樹千年』平成27年再興第100回院展

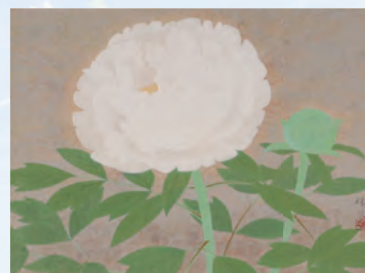
先生の雅号「珠泉」の「泉」は、南湖公園が由来。公園の松をモチーフとした『松樹千年』や、文化交流館コミネス大ホールの緞帳原画などの作品を手がけられ、常に故郷白河に想いを寄せておられました。

また、市に自作品124点を寄贈いただいたほか、後輩の励みになればと



▲『手長猿』白一小所蔵

画家を志す後輩らの励みになれば



▲『白牡丹』中央中所蔵



▲白河高校所蔵 ※タイトル不明

母校である白一小や中央中、白河高校に作品や書籍を寄贈されました。

このように、本市の文化芸術振興に多大なるご尽力いただいたご功績に深く敬意を表するとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

故郷白河の新たな一歩に



▲文化交流館コミネス大ホールの緞帳

白河市が未曾有の大震災から力強く立ち上がり飛躍発展すること、さらにはコミネスが市民の心の拠り所となり、未来永劫(えいごう)繁栄していくことを十六羽の鶴が羽ばたく姿を通して描いたものです。